



(岐阜大学教育学部郷土博物館所蔵 村絵図 114、以下、特に所蔵を明記していない史料の写真は、教育学部郷土博物館所蔵のもので)

これは、江戸時代の村絵図で、現在の岐阜県の最北部の場所を描いています。

Q 1 : この村から隣^{となりむら}村へ行く場合、南の村へ行く時は川に橋^かが架けられています、北の村へ行く時には橋がありません。どのように、対岸へ行っているのでしょうか？

(小さく描かれています)

Q 2 : この絵図の場所はどこでしょう？ (宮川と高原川が流れています)

答えは5ページに

目次

創刊にあたって／教育学部郷土博物館の史料整理	2
史料を見てみよう！	5
中山道河渡宿の長良川渡船—移動する渡船場—	6
交流コラム／地域資料・情報センターの収集資料／編集後記	8

創刊にあたって

岐阜大学地域資料・情報センター運営委員（地域科学部准教授） 朴澤直秀

『地域史料通信』の創刊号をお届けします。

岐阜大学の教育学部郷土博物館には、飛騨・美濃地方に残された、江戸時代・明治時代の貴重な地域の歴史資料（＝史料。文書や記録、絵図など）が、膨大に所蔵されています。

しかし、それらの史料の整理・保管は、たいへん不十分なものとどまっていた。そこで、岐阜大学地域資料・情報センターでは、事業の一環として史料の再整理・情報発信に取り組んできました。



現在、整理中の史料（方
県郡木田村山田家文書）

『地域史料通信』は、これらの史料からわかる歴史や地域像の一端を、わかりやすくお伝えしていこうという試みです。ただし、私たちがお伝えしたいことは、それだけではありません。

整理・情報発信の事業を通じて、史料を整理・活用していくためのノウハウ、あるいは注意点・疑問点などが浮き彫りになってきます。そういった情報を、『地域史料通信』によって、みなさまと相互に交換することができればと考えております。

過去の史料や、現在進行形で日々つくられているさまざまな書類・記録などは、過去・現在・未来の人の営みを後世に伝えたり、（たとえば年金記録のように）人びとの権利の証明にもなるものです。現在、地域の史料や公文書を保管・公開する岐阜県歴史資料館が大幅な機能縮小状態におかれています。その問題も含め、史料や記録資料をどのように保存・活用し、後世に伝えていくかということが、地域にとっての大きな課題となっています。『地域史料通信』が、その課題についてみなさまと共に考える場となるように、今後とも努力してまいります。

教育学部郷土博物館の史料整理

教育学部郷土博物館

この博物館のはじまりは、岐阜県師範学校に設置された「郷土室」です。1930年（昭和5）に文部省から全国の師範学校へ郷土研究費が支給され、郷土の歴史などにかかわる資料が集められました。1955年（昭和30）に博物館相当施設の指定を受け、1964年（昭和39）、長良キャンパス内（現在の長良公園）に建物が完成しましたが、1983年（昭和58）、岐阜大学の移転にともない、現在の教育学部本館5階に移転しました。

教育学部郷土博物館の収蔵品

教育学部郷土博物館には、県内で集められた考古資料と、江戸時代や明治時代の3万点以上の歴史資料（史料）が保管されています。これらは、江戸時代に村の役人（庄屋）を務めていた家の史料がほとんどで、岐阜県内の歴史を知る上でたいへん貴重な文化財です。この内容豊かな史料を、永続的に保存・活用していくために、整理作業を進めています。

史料整理について…作業の手順について紹介します。

記録します。どのように史料が入っているのかを確認します。史料が入っている金属製の箱やダンボール箱や、その中にどう史料が入っていたのか、その状態をデジタルカメラで撮影します。

村絵図が入っていた箱から、表紙でとりあげた絵図を出そうとしても、これでは時間がかかりそうです。

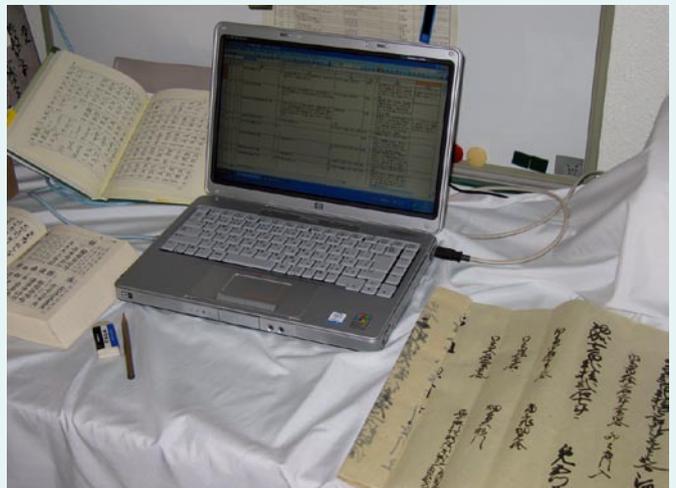


清掃します。箱に入っていた史料のほこりや汚れを、1点ずつ落としていきます。きれいになった史料は、1点ずつ新しい封筒へ入れ、まとまったら新しい箱へ入れ替えます。

史料は光や湿気が苦手です。封筒や箱（中性紙で作られた特注品）に入れることで、光や湿気を防ぐことになります。湿気の少ない時期に行うのが最適です。

入力します。史料に記されているタイトルや年代、作成した人や宛先などの情報をパソコンに入力して、目録を作成していきます。

何が書いてあるのか、わからない時は、辞書（くずし字辞典）を使って解読していきます。



調べます。 パソコンに入力した情報から、どのような内容の史料があるのか、または、その史料があった地域はどのような所であったのか、史料に関する様々な事を調べて、冊子（目録）を作っていきます。写真は、地域・資料情報センターの書庫です。県内の自治体史や地区史など、地域を調べるのに役立つ書籍があります。



保管します。 封筒と箱を入れ替えた史料は、収蔵室に保管します。箱の中の史料は、1点ずつ封筒に収納されて、目録の順番通りに入っています。これで、史料がすぐに取り出せるようになりました。

これまでの作業で、2つの文書群の整理が終わり、2冊の目録を刊行しました。

- ・『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録(1) 美濃国方県郡河渡村 村木家文書目録』
 - ・『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録別冊(1) 岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵 村絵図』
- これらの目録は、県内の各市町村の図書館や主な歴史博物館・資料館、東海地方の県立図書館などへ寄贈しています。また、大学の研究室（日本史研究室など）にも寄贈しています。

◆ 史料の閲覧

閲覧ご希望の方は、事前に下記までご連絡ください。

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1

岐阜大学教育学部本館 5F 郷土博物館

Tel (058)293-2223 または(058)293-2209



史料を見てみよう！

—表紙の答えは
絵図にかくされていました—



解説すると、

解説すると、

高山
御役所

絵図は高山陣屋へ提出されました。

右者
吉城郡谷村絵図奉差上候已上

現在の岐阜県飛騨市神岡町谷です。

文化元年五月

一八〇四年に作成されました。

絵図を提出した村役人です。

谷村百姓代	徳右衛門(印)
同村組頭	長介(印)
右村名主	中山村
嘉兵衛(印)	



歌川広重 六十余州名所図会
飛弾(驛)籠わたし
大判錦絵 嘉永6年(1853)
(中山道広重美術館所蔵)

村絵図の左には、絵図の描かれた場所や作成された年代、この絵図の提出先や提出した村役人などが書かれた紙が貼り継がれていました。飛騨国では、数か村の村で一人の名主というところが大部分なので、谷村の名主として中山村の名主の名前が記されています。

絵図には小字名(「上の平」「前田」など)や田畑のある場所、高札場や宮(十一面観音堂)なども描かれています。○は、家を表現しています。赤い線は往還道で、飛騨と越中国を結ぶ越中街道の一つ、中街道です。

谷村の北にある蟹寺村(現在の富山市)へ行くには、「駕籠(籠)の渡し」を使っていました。宮川の両岸は断崖絶壁でしたので、両岸に命綱を張り、それに籠をつり下げて、行き来していたのです。

中山道河渡宿の長良川渡船 —移動する渡船場—

美濃国^{かたがた}方郡河渡村の村木家文書

河渡村は、現在の岐阜市西部にあたり、長良川の右岸に位置しています。江戸時代、ここは中山道の宿場の一つで、長良川を越えた東は加納宿（岐阜市）、西には美江寺宿（瑞穂市）がありました。宿場には、本陣^{はたご}や旅籠^{りゆうろう}といった旅人たちが泊まる旅館などがあり、旅人や荷物を運ぶための人足^{にんそく}や馬が準備されたりしていました。また、ここは長良川を渡るための渡船場でもありました。

村木家は、河渡村の庄屋などを勤めた家で、この家に残された史料には、江戸時代の渡船場を描いた絵図や渡船場の工事関係の史料も含まれています。

姫君たちの渡し船

江戸時代、中山道は、京都から將軍家へ嫁ぐ姫君たちの通行にたびたび使われました。村木家文書には、①天保2年（1831）有君様御下向^{ありぎみ}之節渡船場絵図、③嘉永2年（1849）寿明君様^{すめぎみ}・文久元年（1861）和宮様^{かずのみや}渡船場絵図写などの絵図が残されています。

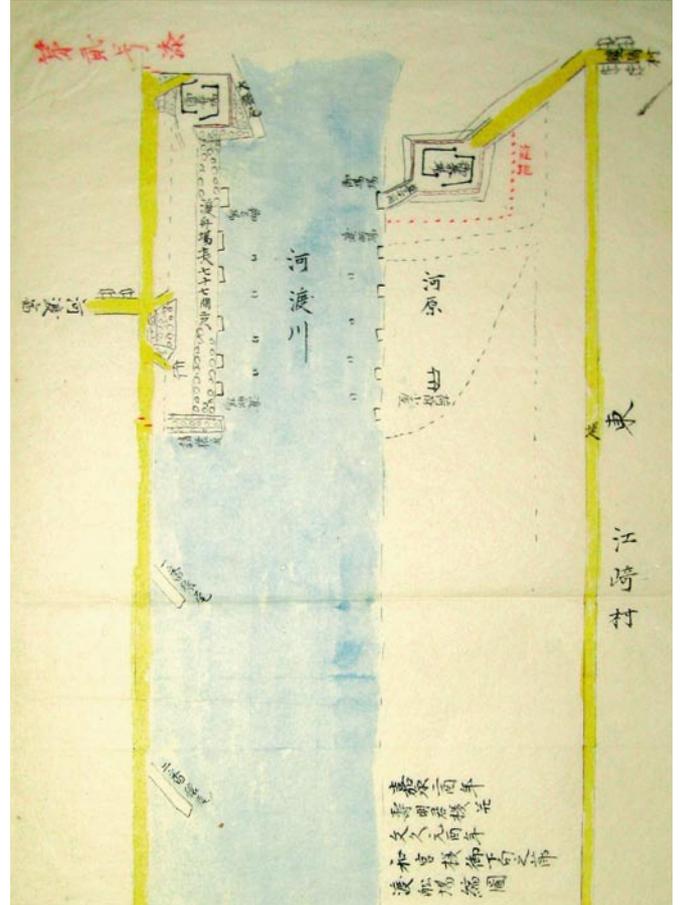
この姫君たちは、同じ渡船場を使っていないことが、絵図から確認できます。①の時は、中山道より南の渡船場を利用していますが、③の時は、中山道を出てすぐ東の場所を渡船場として使っています。今まで河渡の渡船場が移動していることは知られていましたが、その理由は、東高木家文書（名古屋大学附属図書館ウェブサイトデータベースと画像を公開）の②の絵図を見るとはつきりします。①の有君の場合、中山道を出てすぐ東の渡船場からでは、長良川にできた中洲が障害となるため、中山道より南の位置に渡船場を整備したと思われます。③の寿明君や和宮の場合は、②の絵図を見ると明らかなように、①の時に整備した渡船場の目の前に中洲が出現しています。このため、有君の時に利用しなかった中山道東の渡船場を使用したのでしょう。②の絵図の年月日は未詳ですが、渡船場の移動から、天保2年（1831）以降から、嘉永2年（1849）・文久元年（1861）までの間に、作成された可能性が考えられます。



①天保2年（1831）有君様御下向渡船場絵図
（村木家文書 は16）

徳川13代將軍家定に輿入れする有君が長良川（絵図では河渡川）を渡る時のものです。徳川家定の正室で有名なのは大河ドラマの篤姫ですが、その前に家定には有君、寿明君の2人の姫君が嫁いでいます。

画面上部の中山道（黄色）を出て東に「下渡船場」、それより南の所には「渡舟場長六拾間」と記されています。有君は整備された南の渡船場を使用しました。



②東高木家文書〔河渡村渡船場模様替の絵図面〕

(画像提供 名古屋大学附属図書館)

年月日未詳の絵図です。①の絵図で有君が使用した渡船場(「長六拾間」)の目の前と、その対岸に中洲が描かれています。

画面中央の中山道を出てすぐ東の渡船場の猿尾(川の流れを弱めるための小堤防)の延長や新規の工事箇所が、赤色で表現されています。

③嘉永2年(1849)寿明君様・文久元年(1861)

和宮様渡船場絵図写(明治7年ごろの写)

(村木家文書 明治242①)

有君の後に13代将軍家定に嫁いだ寿明君、徳川14代将軍家茂に輿入れした皇女和宮が長良川(絵図では河渡川)を渡る時の渡船場が描かれています。

画面上部の中山道(黄色)を出てすぐ東の渡船場は、②の絵図のように整備されています。

長良川にできる中洲

なぜ、この場所に中洲ができるのでしょうか。^{さつま}薩摩藩による宝暦治水以降、長良川の勢いが鈍くなっていきます。この地域は、いくつかの河川が長良川に合流する所でもあったため、上流からの土砂が川底に溜まりやすくなり、中洲ができやすい場所となっていくたのです。また、上流域から流出する膨大な土砂も、中洲が出来る原因の一つでした。長良川やその支流にある村々の村明細帳(村の概況などを記載した史料)には、山林からの土砂流出を防ぐための施設(「砂石留」)の設置が記されています。江戸時代の山林は、^{たきぎ}薪を取るなど様々な目的に活用されていましたが、山林の樹木をむやみに伐採することにより山が荒れ、川に土砂が流出することになったと考えられます。

長良川へ流れ込む土砂が、河渡宿の渡船場に影響をあたえていました。この渡船場の変遷は、まだ不明な点が多いのですが、様々な史料群を通して、これを解明することにより、江戸時代における長良川の状態の一端を明らかにしていくことができるのではないかと思います。

交流コラム～現場から～

《可児市史編纂室から》

可児市では平成13年(2001)から『可児市史』全六巻の編纂事業を行っています。これまでに第一巻 通史編 考古・文化財、第四巻 自然編・民俗編、第五巻 資料編 古代・中世・近世、第六巻 資料編 近・現代を刊行し、現在は、第二巻 通史編 古代・中世・近世、第三巻 通史編 近・現代を編纂中です。

自治体史の編纂事業では、資料や情報の提供といった市民の理解や協力が必要不可欠です。このため、編纂室では編纂事業への興味・関心を高める活動を積極的に行い、定期的を開催する市史編さん講座や市史発刊に伴う講演会など、地域の人々との交流の場を設けています。また、市史に収録できなかった編纂過程の諸成果も地域の人々で共有すべき財産であると考え、本編とは別に可児市史調査報告書第一集(薬王寺一仏像・建築・大般若経一)、同第二集(可児市の民俗調査資料集 上)を刊行いたしました。さらには、市史を活用する対象者を増やすために、本編のダイジェスト版である『可児市の自然ガイドブック』を刊行いたしました。今年度は民俗資料集 下と、市内の棟札調査の成果をまとめた報告書の刊行を予定しています。



※「交流コラム～現場から～」では、岐阜県周辺での自治体史編纂や史料の展示など、史料に関するあらゆる情報をお届けしていく予定です。皆様からの情報をお待ちしています。

地域資料・情報センターの収集資料

センターでは、岐阜県内の自治体の様々な行政情報などを収集・整理し、大学内の研究活動の助けとなっています。現在は、多くの自治体関係者や住民が利用することができるように、地域に関する情報の整備を進めています。県内の市町村の総合計画・統計資料などや、自治体史、岐阜県関係文献などの収集資料の目録は、教育学部郷土博物館収蔵史料目録の一部と共にインターネット上で公開しています。活動の詳細については、ホームページをご参照ください。

編集後記

『地域史料通信』創刊号をお届けします。わかりやすい史料紹介などが出来たかどうか、甚だ不安ですが、今後とも一層努力していきたいと思っておりますので、暖かいご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。創刊にあたりまして、恵那市の中山道広重美術館、可児市史編纂室、名古屋大学附属図書館をはじめ、多くの方々からご教示・ご協力を賜りました。皆様、本当にありがとうございました。(中尾喜代美)

岐阜大学 地域科学部 地域資料・情報センター 地域史料通信 創刊号

発行日 2009年10月30日 年1回刊行(予定)

編集・発行 岐阜大学 地域科学部 地域資料・情報センター

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 Tel (058)293-3323 Fax (058)293-3324

<http://rilc.forest.gifu-u.ac.jp/> E-mail:archives@gifu-u.ac.jp